

保護者等向け 児童発達支援評価表

公表日: 2026年3月6日

事業所名: 児童発達支援 児童発達支援 けいさlittle

対象人数(保護者)19人 回答者数 15人 回収 78.9%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	①	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	15					
	②	職員の配置数は適切であると思いますか。	15					
	③	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境(※1)になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	15					
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	15					

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
適切な支援の提供	⑤	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	15					
	⑥	事業所が公表している支援プログラム(※2)は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	14	1				支援プログラムはホームページからご覧いただけます。また、日々の提供する支援内容については送迎時や面談の際にできる限り説明させていただきます。
	⑦	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(個別支援計画)(※3)が作成されていると思いますか。	15					
	⑧	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	15					
	⑨	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	13	2				職員間での個別支援計画の共有に努め、日々の支援が計画とずれていかないように振り返りをしながら、計画に沿った支援を実践していきます。また、計画の変更が必要になった場合には、保護者様の同意を得た上で計画を変更し、日々の支援に反映させていきます。
	⑩	事業所の活動プログラム(※4)が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	14	1				活動プログラムが固定化されないよう工夫はしていますが、午前クラスは、年齢的に変化による影響が大きい等の事情から、ある程度パターン化した活動を行っています。
	⑪	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	7	2	2	4		公園遊びの際に近隣の保育園との交流があり、一緒に遊んだり、保育園の集団遊びに参加させていただいたりしています。それ以上の地域での交流は難しいのが現状です。

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
保護者への説明等	⑫ 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	15					
	⑬ 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	15					
	⑭ 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング(※5)等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	13				2	事業所独自の研修会を行うことは現状難しいですが、自立支援協議会の児童部会に積極的に参加し、地域の支援体制構築のために力を尽くす中で、家族支援となるプログラムの立案にも関わり、今年度も専門家を招いた講演会が開催されました。
	⑮ 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	15					
	⑯ 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	14	1				送迎時及び半年ごとの面談時に、ご家族の困りごとやお悩みの相談に応じ、助言、提案を行っています。必要に応じて個別に相談援助を行うこともあります。
	⑰ 事業所の職員から共感的に支援がされていると思いますか。	15					
	⑱ 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	13				2	保護者交流会を定期的で開催しています。
	⑲ こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	15					
	⑳ こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	15					
	㉑ 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	14				1	HUGのマイページから閲覧できます。
㉒ 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	15						

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
非常時等の 対応	㉓	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	12			3		マニュアルの周知に努めていきます。災害を想定した訓練は定期的に行っています。
	㉔	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	12			3		定期的に、地震、水害、火災を想定した訓練、職員の通報訓練等を行っています。
	㉕	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思えますか。	14			1		安全確保について職員間で日常的に話し合いの機会をもち、安全確保のための計画作成と見直しに努め、それが日々の支援の中で機能するようにします。また、安全計画が周知されるよう努めていきます。
	㉖	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思えますか。	14			1		怪我等の不測の事態が発生した際、緊急性がある場合には速やかにご家族に連絡し、状況の説明をいたします。
満足度	㉗	こどもは安心感をもって通所していますか。	15					
	㉘	こどもは通所を楽しみにしていますか。	15					
	㉙	事業所の支援に満足していますか。	15				息子は通うことをとても楽しみにしており、保育園の後こちらに通うことで、ストレス発散になって情緒を保っていると思えます。こちらに通うようになってから笑顔が増え、感情のコントロールが上手になったり、多くの成長を感じる事が出来ています。また関わり方や生活面についても、私自身、学ぶことが多く、本当に助けてもらってます。	けいきlittleでは、一人ひとりの個性に合わせて、遊びの中で楽しみながら発達を促しています。好きなこと、得意なことを土台として課題に取り組みます。どんな小さな成功もたくさん褒めて、自信を育む支援をしています。

※1「本人にわかりやすく構造化された環境」とは、こども本人がこの部屋で何をやるのかがわかりやすいよう、机や本棚の配置などを工夫することです。

※2「支援プログラム」とは、事業所における総合的な支援の推進と事業所が提供する支援の見える化を図るため、事業所で行われている取組等について示し、公表することが求められています。

※3「児童発達支援計画(個別支援計画)」は、児童発達支援を利用する個々のこどもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援方針や支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成し、保護者等への説明を行うとともに同意を得ることが義務付けられているものです。

※4「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。こどもの発達の状況や障害の特性等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

※5「ペアレント・トレーニング」は、保護者がこどもの障害の特性やその特性を踏まえたこどもへの関わり方を学ぶことにより、こどもの行動変容することを目標とします。

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 けいきlittle		
○保護者評価実施期間	令和 8年 2月 1日		～ 令和 8年 2月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	令和 8年 2月 1日		～ 令和 8年 2月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりに寄り添った丁寧な支援ができること	1～3才の午前クラス、3～6才の午後クラスに分け、各クラス少人数の設定で、発達段階に合わせた支援、一人ひとりの個性に合わせた支援を提供している。	外部研修の受講、勉強会の実施等、スタッフのスキル向上の機会を増やす。
2	保護者との信頼関係	保護者の困りごとやお悩みについて、可能なかぎり時間をとって相談に応じ、助言、提案を行っている。また、保護者交流会を定期的に開催し、保護者同士の交流の機会を設けている。	ひとり親家庭や、家族の協力を得にくい家庭の問題等に気づき、良き相談相手となって、親の孤立を防止し、支援につなげていく。
3	スタッフのチームワーク	子どもの様子、園や家からの情報、支援の変更点、ヒヤリハット等、こまめに情報共有し支援に活かされるようにしている。	スタッフ一人ひとりが、困りごと等を気軽に相談できるような雰囲気をつくり、それぞれの大変さを皆で共有しフォローし合える関係を築く。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個室がなく、静かに過ごしたい子どもの居場所がない。また、個別プログラムを事務所の一角で行っている。	聴覚過敏等の子が落ち着ける場所がない。また、個別プログラムを行う時、子どもの気が散ってしまったり、集中できなかったりする。	落ち着く場所としてキッズテント等を活用する。個別プログラムの際には、パーティション等で集中しやすい環境を整える。
2	プレイルームが狭い。	動き回りたい子どもにとってはプレイルームが狭く、危険な状態になることがある。また、騒音がひどい。子どもの動きを制限することは難しい。集団遊びや運動も奨励したい。	公園遊びを増やし、ストレスを発散できるようにする。公園に行けない時はテラスでの水遊びやシャボン玉や、室内で落ち着いてできる魅力ある活動等を工夫する。
3	地域連携ができていない。	関係機関の間では、担当者会議や引き継ぎ時に情報共有をしているが、地域の中で交流する機会は少なく、どのように交流すればよいかかわからない。時間もない。	どのような交流が可能か、事例を研究してできることを探す。

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名		けいきlittle		公表日		令和8年 3月 6日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	1	公園遊びを増やし、ストレスを発散できるようにしている。公園に行けない時は、テラス等を活用して水遊びやシャボン玉等の活動ができるようにしている。	動き回りたい子どもにとってはプレイルームが狭く、危険な状態になることがある。また、騒音がひどい時もある。子どもの動きを制限することは難しい。集団遊びや運動も奨励したい。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1	落ち着く場所としてキッズテントを活用している。個別プログラムの、職員室の一角を使って、できるだけ静かな環境で課題に取り組めるようにしている。	聴覚過敏等の子どもが落ち着ける場所がない。また、個別プログラムを行う際、子どもの気が散ってしまったり、集中できなかったりする。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	1		自発管が決めることが多くなってしまっている。その他の職員も多忙で手が回らない。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	4		第三者による外部評価は受けていない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6				
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7				
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	1	職員全員の共通理解はもてるよう努めている。	検討する時間が短く、形式的なものになっている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6				

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	1	週2回ミーティングの時間を長めにとって、支援内容と役割分担等の確認をしている。チームワークは良い。	朝から夕方まで午前クラス午後クラスと支援が続くため、時間がない。毎回行うことは難しい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1	簡単な報告にとどまるが、記録をとっておいて、必ずミーティング時に振り返りができるようにしている。	送迎に時間がかかるため、毎日行うことは難しい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	1	個別支援計画書を提出し、できるかぎり情報共有と相互理解が得られるよう努めている。	ジュニアに移行することになり、入学後は新しい担当者が対応することになる。子どもにとって大きな変化が起こる時に、理解している支援者が担当を離れている。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	3		近隣に児童発達支援センターはなく、連携の方法もわからない。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	4	公園遊びの際に、近隣の保育園との交流があり、一緒に遊んだり、保育園の活動に参加させていただくことがある。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7			
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7				

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7			
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7		幼児の安全の見地から、大人数になるイベントは適さないと考えている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	1		様々な場面を想定した訓練が必要。また、マニュアルの周知が十分ではない。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	1		BCPの策定が十分でない。業務に追われ、時間がない。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8		保護者から聞き取りをしている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	1	保護者に確認をとって、アレルギーをおこす可能性のあるお菓子等は利用しないようにしている。	過去に医師から指示書を受けたケースはなかった。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	1	日常的に安全について話し合い、必要な措置を講じている。	安全計画の策定が十分でない。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	1	折に触れて保護者に説明をし、ご協力をいただいている。	安全計画の周知が十分とは言えない。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		突発的な事故や危険な状態があった時には必ず記録に残し、再発防止に向けた話し合いをしている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6				